

～映画や小説は生きる知恵と
勇気を与えてくれる～

九年目の女性学

映画とトークで、豊かな男女共同参画社会をめざして
女性・男性が抱えている問題をほりさげ研修します。
年齢性別問いません。無料ですのでお気軽にご参加ください。
ご興味のある回だけの参加もできます。
案内人は鎌田明子さんです。
マスク持参でご参加ください。



開催内容 ～全10回～

	5月16日(土)	映画「あん」(2015年、日本。113分)	ドリアン助川原作。樹木希林、永瀬正敏、市原悦子。「私たちはこの、聞くために生まれてきた。だとすれば、何かになれなくても、私、価値があるのよ。」美味しい粒あんを炊く謎多き女性と、どら焼き店の店主や店を訪れる女子中学生などの人間模様。人間が尊厳をもって生きる姿をこの映画に見ることができる。
	6月13日(土)	映画「記者ウォー」(2019年、アメリカ、91分)	W.ブッシュ大統領は「大量破壊兵器撲滅」を掲げ、イラク侵攻に挑んだ。「ナイト・リッダー」誌のワシントン支局長は部下とともにイラクの取材を始める。だが破壊兵器の証拠はなく、政府の陰謀であることを突き止めた彼らは、戦争突入を止めさせるために・・・ ジャーナリストとしての信念や、貫くべき姿勢・態度などを知ることができる力作。
3	7月18日(土) 14:00～	映画「RBG 最強の85歳」(2018年、アメリカ、91分)	「RBG」とは、1933年生まれ、85歳(現在は87歳)にして現役の女性最高裁判事、ルース・ベイダー・ギンズバーグの頭文字である。「一人の女性が、アメリカを変えた」と評される、アメリカで最も尊敬されているパワーウーマンの実績を伝えるドキュメンタリー映画。世の中を変える・変わる、ということに絶望を感じている人たちに一条の光りをもたらす映画。
4	9月19日(土) 14:00～	映画「赤毛のアン」(カナダ・アメリカ、1985?年、141分)	カナダの美しいプリンス・エドワード島。アンは、孤児院育ちの、赤毛でそばかすが多い魅力あふれる女の子。背負わされている不幸や悲しさを、豊かな想像力による空想と、ウィット溢れるお喋りで乗りきり、たくましく成長する。小説の作者モンゴメリーは本作の続編でその後のアンを描いているが、それらをふくめて、女性的視点を持ちたい。

TEL/FAX 0740-22-5775

“ゆめぱれっと高島”高島市働く女性の家

受付時間:火～土曜日 9:00～21:00、日・月曜日・祝日は休館日



5	10月17日(土) 14:00~	映画「ハート・オブ・ウーマン」(2000年、アメリカ、127分) アメリカの大きな広告代理店で働くニックは仕事にも女性にも自信満々のバツイチ独身男。部長昇進を確信していたのに、他社から引き抜かれた有能な女性、ダーシーがその座に座る。ひよんなことから、落ち込むニックの耳に、周りにいるあらゆる女性の声が聞こえるようになるーこれは幸か不幸かー。ロマンティック・ラブ・コメディ。
6	11月7日(土) 14:00~	映画「マイ・ブックショップ」(2017年、イギリス・スペイン・ドイツ、112分) 1959年のイギリス東部、海辺の保守的な小さな町で、戦争未亡人フローレンスは読書の楽しみを広げたいと、それまで町に無かった書店を開店する。仕入れる本は評判を呼ぶが、保守的な考えに凝り固まった人々の悪意によって商売は窮地に陥る。フローレンスの静かなる勇気と奮闘を応援したくなる映画。
7	12月19日(土) 14:00~	映画「それから」[The Day After Tomorrow] (2017年、韓国、91分) 韓国の監督(ホン・サンス)と女優(キム・ミニ)の映画に、カンヌ国際映画祭は喝采を送った。若い女性アルムは小さな出版社に雇われた初日に、妻から浮気を疑われている社長やその愛人との騒動に巻き込まれる。家に帰りたくないある男の生活からインスピレーションをえた本作は、男と女の可笑しみが満ちている。「ままならない人生」は世界共通のテーマか。
8	1月16日(土) 14:00~	映画「世界で一番ゴッホを描いた男 [China's Van Gogh]」(2016年、中国・オランダ、84分) 一筆一筆キャンバスに自分の命を刻み込んで描き続けた孤高の画家ゴッホ。複製画作りでは世界の半数以上のシェアを誇る中国の「油画村ダーフェン」で、20年間ゴッホの複製画を描いて生計を立てている趙小勇という職人。本物のゴッホの絵を見たいという夢をついに実現させた彼は、オランダで何を見、何を感じたのか。ドキュメンタリー映画。
9	2月20日(土) 14:00~	映画「ガンジスに還る」(2016年、インド、99分) 不思議な夢を見て死期を悟った父の決断と行動——それはインドの聖地、ガンジス河畔のバラナシに行き、「解脱の家」で静かに、安寧の境地のうちに生を終えることだった。仕事人間の息子は、初めは父の決断に猛反対し、仕方なしに父に同行したが、やがては見守り、理解できるようになる。監督は20歳代半ばでこの映画を制作した。
10	3月13日(土) 14:00~	映画「家(うち)に帰ろう」(2018年、スペイン・アルゼンチン、93分) アルゼンチンに住む88歳の仕立て屋アブラハムは、彼を施設に入れようとする家族から逃れて遠路ポーランドへ旅立つ。70年前にホロコーストから命を救ってくれた親友に、自分が仕立てた服を手渡すためだった。道中さまざまな人が手助けをしてくれる。はたしてアブラハムの人生最後の旅に奇跡が起こり、親友と再会できるか。感動のロード・ムービー。

※悪天候、その他のやむを得ない理由によって、内容を変更もしくは開催を中止することがあります。

※研修参加ご希望の方は、お申し込みが必要です。(当日会場でお申し込みください。)

※参加費は無料です。

主催:高島市働く女性の家【NPO法人 元気な仲間】

共催:高島市男女共同参画推進協議会 “ハーモナイズ高島”

自主学习グループ(小林 斐子)

